

令和元年度 事業報告書

(第 28 期)

自 平成 31 年 4 月 1 日

至 令和 2 年 3 月 31 日

(設立許可 平成 3 年 12 月 20 日)

公益財団法人 ホソカワ粉体工学振興財団

大阪府枚方市招提田近 1 丁目 9 番地

令和元年度 実施事業の概要

本年度は、平成 31 年 2 月の理事会ならびに同 3 月に開催された評議員会において決定された事業計画書に従い、以下の事業を実施した。

I. 一般助成事業（事業管理費を含む実施額 1,353 万円、予算額 1,933 万円）

本年度は、年度計画に従い助成事業の中の 4 つの助成等を実施した。実施に当たっては、令和元年 5 月に助成事業の募集を開始し、応募締切日 7 月 20 日までに提出された申請書類を基にして 8 月 26 日に選考委員会を開いて審査分担を決めて採点が行われた。その審査結果を事務局にて集計し、連絡会議にて検討の上、選考委員会の推薦案がまとめられ、12 月 12 日の第 2 回理事会にて受贈者が決定した。本年度は、主に経済的な理由により贈呈式の開催は行わないことになった。

1) KONA 賞の授与（賞金配分額 100 万円）

KONA 賞については本年度も、一昨年度から開始した、国内に限定しない候補者の推薦を得るために、KONA 誌の国際的な編集委員会体制を活用して広く世界から募集した。その結果、国内外から 4 件(4 名)の推薦があり、選考委員会で承認された 10 名（日本人 4 名、アジア・米国・欧州ブロックからそれぞれ 2 名）の KONA 賞審査委員による採点結果を基にして選考委員会で選考され、理事会にて承認を得た。その結果本年度は、大阪大学の内藤牧男教授に、“Contributions to Powder Processing Technology for High Quality Advanced Materials” の業績に対して KONA 賞の授与が決定された。授賞式は、令和 2 年 9 月に東京で開催される予定の第 54 回粉体工学に関する講演討論会で行われることになっている。

2) 研究助成（助成金採択額 720 万円）

本年度は昨年度(132 件)と同程度の 119 件の応募があったが、予算額の減少のため、その中から昨年の半数に近い 10 件（昨年度は 19 件）の研究に対して助成することが決定された。研究助成については、採択率が 20%程度以上になることを目指しているが、本年度の採択率は昨年の 14.4%から 8.4%に低下した。

3) 研究者育成のための援助（援助金採択額 300 万円）

本年度は 22 件の応募があり、これらの中から選考委員会で 10 件が推薦され、第 2 回理事会にて承認され、採択者が決定された。本年度は採択者の中の外国人留学生は 1 名であった。なお、採択案件の決定後、その対象者の 1 名が個人的な事情により援助金の受領を辞退されたため、最終的には研究者育成の実施件数は 9 件、支給額は 270 万円となった。

4) シンポジウム等の開催援助（援助金配分額 0 万円）

シンポジウム開催援助については、本年度は 1 件の申請があったが、選考委員会での討議の結果、本年度は、その主催機関が、募集要項に記載されている学・協会等の団体でないこと、また本年度は収入見込みが当初予算を大幅に割り込み、厳しい経済的状況が見込まれることを勘案し、本申請の採択は見送ることになった。

II. 特定事業（実施額 270 万円、累計積立額 300 万円）

1) 第 3 回国際ホソカワ粉体工学シンポジウムの開催

平成 30 年度から積み立てを行ってきた「アジアでの国際化展開のための特定事業」として、令和元年 11 月 19 日(火)に、中国上海にある上海セラミックス研究所で、第 3 回国際ホソカワ粉体工学シンポジウム（3rd Hosokawa Powder Technology Symposium）を開催し、大学ならびに企業から全体で 130 名余りの参加があった。本会の開催に当たっては、上海セラミックス研究所ならびに日本の粉体工学会の共催、ホソカワミクロン(HMC)とホソカワミクロン上海(HMS)の後援を得た。今回のシンポジウムでは、「機能性材料のための粉粒体工学」をテーマとして、細川理事長の開会挨拶の後、5 件の講演が行われ、最後に HMS の内田理事長の開会挨拶で終了した。同会場では、当財団の歴史や活動を紹介するためのパネル展示や、KONA Powder and Particle Journal の最新号などの展示も行った。その後、同研究所内の別会場で懇親会が行われ、参加者間の交流を深めた。

III. 財団自主事業（実施額 1,169 万円、予算額 1,160 万円）

1) 粉体工学に関する講演討論会の開催（実施額 469 万円、予算額 450 万円）

第 53 回粉体工学に関する講演討論会のプログラムと講演要旨、申込書を添付した案内状を 6 月から配布すると共に、当財団ならびにホソカワミクロンのホームページに掲載して集客を図った。そして、同講演討論会を 10 月 7 日(月)にホテル日航大阪にて、「高度化する粉体プロセスの基礎と応用の最前線」をテーマとして開催した。定員 150 名に対して、178 名の参加があった。本会の開催内容について、当財団のホームページに報告(10/11)すると共に、KONA 誌 No. 37 (2020) に報告記事を掲載した。なお、本講演討論会の企画は、粉体技術談話会（会長 齋藤文良東北大学名誉教授）に委託して行われた。

2) 国際学術誌「KONA Powder and Particle Journal」の発行（実施額 700 万円、予算額 710 万円）

本年度は、合計 19 件の論文（アジア 9 件、欧州 5 件、米国 5 件）を掲載した No. 37 (2020) (271 頁) を 1,000 部印刷し、令和 2 年 1 月 10 日付けで出版して、国内外の読者、大学、

図書館等の関係者への発送を行うと共に、同日財団ホームページに出版の案内を行い、Webジャーナルも掲載した。本号より全表をカラー電子化し、大部分をカラー印刷版で出版した。

令和2年1月28日にアジアブロック編集委員会を開催し、次号No. 38(2021)以降の出版に向けて、新たに14本の推薦論文の提案があり、昨年度に未掲載の推薦論文を含めて、順次執筆可否の問合せを進めた。なお、本誌は、日本科学技術振興機構(JST)によって運営されているオンライン学術誌データベースJ-STAGEに2013年から掲載されている。これによって、本誌の日平均利用件数は加入当時(2013/12/20)の約100件から800件を超え、通算利用件数は123万件余りとなっている。そして、本誌の評価指数はWeb of ScienceやScopusによるとそれぞれIF=1.553(前年1.638)、SJR=0.426(前年0.494)とほぼ昨年レベルを維持している。また、同機構の支援を受けたオンライン投稿査読システム(EMシステム)の本運用を2017年から開始しているが、本年号では掲載論文の4分の3がこのEMシステム経由で入稿されている。

IV. 年報の発行(実施額106万円、予算額70万円)

年報は当財団の活動状況と財団の助成を受けた研究の成果等を公表するために発行される。年報No. 26(2018)は、平成30年度の活動状況報告を中心としたもので、平成28年度研究助成成果報告23件と平成29年度研究者育成のための援助成果報告11件を掲載し、令和元年5月に発行した。なお、当財団の年報は平成21年度以降、冊子での発行を取り止め、ホームページでの掲載のみとなっている。平成28年度に科学技術振興機構からの支援を受けて当財団の年報がJ-STAGEに登載されることになり、平成29年に初めて年報No. 23(2015)、続いてNo. 24(2016)、ならびにNo. 22(2014)とNo. 17(2009)までのバックナンバーが同システムに掲載された。平成30年度はNo. 25(2017)のみを掲載したが、本年度はNo. 26(2018)と共にNo. 16(2008)からNo. 12(2004)までのバックナンバーの掲載を実施した。

以上